

R2 白樺学園高校との包括連携事業の振り返り

(1) 協定の趣旨に沿った「内容」であったか

〔協定趣旨〕本協定は、甲と乙の人的、知的資源の交流、活用を図ることで、双方の活動の充実・発展に資することを目的とする。

・テーマ：「地方自治を学ぶ～議会ってどんなところ？」

①議事堂見学・議会体験 ⇒シナリオに沿って進行

②「議会ってこんなところ」～議会の仕組みなどを説明 ⇒資料に基づき説明

(2) 対象者、人数について

・10月－3学年全員（4クラス・全130人）

・2月－1学年全員（4クラス・全133人）

(3) 開催までの準備（体制・期間）は適切だったか

・先方との協議、準備体制：

・先方との協議、準備期間：

(4) 実施の体制・対応は適切だったか

・全議員が委員会ごとに各学年2日間対応。

・議場での生徒サポートと、委員会室での説明班に分かれて対応

(5) 今後の展開・展望について

(参考 : 前年度 3/5 議運での各委員意見)

- 選挙に行ってみたいという声も聴かれたのは、うれしい言葉であった。一方で、今回は、決められたシナリオで進めたが、実際の困りごとをまちづくり、政策に反映するような観点も持って良いのではないかと感じる。もう一歩進めて、形にできるまで取り組めたら良いと思う。
- 初めての取組みとしては、おおむね良かったのではないかと。先生にとっても対応できた。議員もそれぞれ工夫しながら対応しており、評価できる。フィールドワークであったが、一歩進めるということよりも、今のやり方を成熟するようなことが良いのでは。
- この事業、授業の一環として議会にお越しいただいていることであり、高校側が主体である。高校が望むようなことを全力でサポートするようなことが必要と考える。次回、議会が日程含めて準備できるような体制をとることが大切。
- 我々の生徒たちに向けての話が分かりやすかったのか、先生から直接の評価は、これから早い時期にお聞きしながら、次年度の展望に向けて話し合いに持っていくことが課題。4日間という期間で、課題もあったかと思うが、学校側、議会側の課題を共有しながら新たな展開に向けていくことが大事。時期的には早い時期に、組み立てをしていければと。
- 今回の事業内容は非常に学校からも生徒からも満足したということが見えたと思う。ただ受けた側としては点検し修正していくことがあるかと思う。再度同じことを続けるのではなく、精査し、次年度1年、3年ということであれば、同じ内容ということにはならないだろう。中身を精査して臨むべき。
- 各委員の意見のとおり、課題があればその課題を解決して臨まなければならない。包括連携であることから、高校側から望む事業を行っていくことも必要であり、互いが納得いく協議を進めることが大事。初めての取組みであるが、先方とも協議をして次年度に向け早い時点から進めたい。

令和2年2月15日
総務経済常任委員会

令和2年度 白樺学園高校との包括連携協定締結事業におけるテーマ
「地方自治を学ぶ」議会体験と「議会の仕組みと役割を知ろう」仕組み説明の改善点について

- ・ 今回は、高校1年生への説明であったが、内容をどの程度理解できたのか？また、どこまで説明したらいいのか？説明担当者としては、この点が難しかった。
説明内容については、学校（担当教師）が授業として何を求めているなどを打ち合わせする必要があると思う。（仕組み説明者として意見）
- ・ 事前に質問内容を検討してもらい、議会側も説明の準備が整いスムーズに進むのではないかと？模擬議会は、シナリオなしでの参加型にして生徒からの提言があるといい。
- ・ 本会議を傍聴した後に体験する方法もある。
- ・ 議場の進行だけでなく、授業としての考え方が、どこにあるのかを確認したい。
- ・ 担当教師が授業として、どのように捉えているか聞いてみたい。連携協定事業の内容の充実を進めていきたい。

【委員会としてのまとめ】

事前に提出してもらった生徒からの質問内容について議員が分かり易く解説する。
担当教師との事前準備と事後の報告等の意見交換が必要である。

白樺高校との包括連携協定事業について

厚生文教常任委員会のまとめ（令和3年2月17日）

<感想・意見>

- ・資料の通りに説明したが反応があまりなかった。肩の力を抜いて話せるような感じになったらよい。
- ・特に1年生は議員と話すが何を聞いていいかわからないのが前提にある。あの短い時間では議員と話したり雰囲気をつかんでもらうことが必要。やっていることは毎年変わらないが、生徒は毎年変わる。延長線上には生徒と議員が議論できればいいと思うが、あまりステップアップしすぎるよりは現状を継続していくことが必要。
- ・模擬議会はあのような感じでよいのでは。資料に関しては説明もしているし十分理解してもらえたのでは。
- ・いまの形で継続していくことが大切。事業を継続していくことが必要。毎年やっていることは同じだが生徒は変わっていくので、まずは議会を身近に感じてもらうことが重要。
- ・議場の担当であったが現状の形態で継続していくことが大切。毎年やっていることは変わらないが生徒は入れ替わるので現状維持がよい。
- ・議場と委員会室に分かれてやっているが、内容的に連携することが大切。議員に聞いてみたいことなどをあらかじめ高校側で生徒に聞いてもらって、そこに答えていくことも話題のきっかけづくりになるのでは。
- ・委員会室での説明では報酬や立候補できる年齢のことなど、話題提供に努めた。

【委員会としてのまとめ】

- ・議会としては5年間変わらず取り組んできたが、生徒は毎年変わっている。包括連携協定事業として議会や議員を身近に感じてもらいまちづくりに興味を持ってもらえればよい。
- ・あまり求めすぎても議会と学校側に乖離が生じるので、ステップアップしすぎずに現状を継続していくことが重要。